

BOW 傑作を世界からはこぶ  
 ハウ・シリーズNO.3  
 提携エキブ・ド・シネマ  
 フランス映画社配給



un film de  
**JEAN RENOIR**  
**LA**  
**GRANDE**  
**ILLUSION**

avec  
 JEAN GABIN  
 PIERRE FRESNAY, DITA PARLO  
 ERICH VON STORHEIM  
 MARCEL DALIO



国境をこえる愛と自由に平和の理想を刻む  
 巨匠ルノワールの 映画史上最高の金字塔  
 問題の完全版 日本初公開!

**監督ジャン・ルノワール**

ジャン・ギャバン  
 デイタ・パルロ  
 ピエール・フレネー  
 エリヒ・フォン・シュトロハイム  
 マルセル・ダリオ

脚本・台詞 シャルル・スパーク / ジャン・ルノワール  
 撮影 クリスチャン・マトラ / クロード・ルノワール  
 音楽 ジョセフ・コスマ

R. A. C. 製作、Compagnie Jean Renoir 提供  
 フランス映画

Design : Masakatsu Ogasawara

# 大いなる幻影

【完全版】

セゾン・ド・ルノワール'77  
 (エキブ・ド・シネマ アンコールショー)

3月12日(土) ⇒ 25日(金)

●地下鉄(都営6号線)神保町・下車1分/国電(中央線)  
 水道橋またはお茶の水駅・下車7分●神保町交差点

**岩波ホール** (262)  
 5252

特別鑑賞券800円 (岩波ホールチケットガイド(ビル)間の  
 ほかに館内各プレイガイドで絶賛発売中ノ)  
 (当日は一般・学生とも1000円)

■入替え制・自由定員制■

●上映時間●	平日(月→土)	1:00	3:30	6:30
	日曜・祝日	12:00	2:30	5:00

●いま、甦る感動の名篇！

ルノワールの映像芸術は、溝口のそれと並んで、世界の映画の基礎をモンタージュから、「凝視」へふりむける原点であった。その、掛値ない実現を、人間愛と自由感にみちみちたこの傑作の終段は、宣している。生涯の必見作、である。

荻昌弘氏(サンデー毎日11/14号)

ルノワールが敵も味方も人間であることを説くその愛の暖かい描き方に、フランスのルノワール映画の品格というものを感ぜさせる名作である。

淀川長治氏(ロードショー11月号)

まさしく第二次大戦の勃発をさえ予言して、だからこそ戦争否定の悲願が深い痛みで突き刺さる、ジャン・ルノワール監督の傑作である。

南俊子氏(別冊いんなあとりっぷ10月号)

映画全篇をとおして、人間のごく素朴な友愛の情や、尊敬の念や、犠牲心などが、作品の魅力となつている。映画は終始、変らぬ態度で、造型的すぎるといえるほどの絵画的な構成をとり人間の情念を描くことに専念した。寒夜にしんしんと霜の降る音をきく静寂が迫力をうむのである。

虫明亜呂無氏(小説新潮11月号)

この映画は、戦争という共通の場におかれた、さまざまなタイプの人間のありかたが描かれる。そして、それぞれの人間が、緻密な脚本(ルノワールとシャルル・スパーク)と周到な演出と俳優のそれぞれの好演によって比類のないほどたかい密度のヒューマニスティックな映画を作り出したのである。

岡俊雄氏(婦人公論10月号)

●「大いなる幻影」と巨匠ジャン・ルノワールの全貌！

●ヘゼン・ド・ルノワール77

ルノワールは今アメリカにいます。サンフランシスコの自宅で、いくつもの新作の構想をあたためているが、第一次大戦で負傷した脚の古傷(「大いなる幻影」でギャバンが演ずる飛行隊将校の役にはルノワール自身の体験が投影している)のために自重している。新作の構想のひとつには、「素晴らしき放浪者」の女性版(ア)をジャンヌ・モロー主演で映画化する案もあるという。巨匠ルノワール健在。そして昨年、フランス政府がレジオン・ドヌールをルノワールに贈ったのを祝うために、フランスの映画人たちは大挙してサンフランシスコに飛んだ——新文化大臣のフランソワーズ・ジルー女史(彼女は「大いなる幻影」の撮影当時、グルルジの名前でスクリーン・ガールをつとめた)をはじめ、ジャンヌ・モロー、ジャン・マレー、デルフィンヌ・セリグ、シャルル・アズナブール、マリ・フランス・ピジエら。また、アメリカ側から、ジャック・ニコルソン、ポール・ニューマン、ライザ・ミネリらも出席、世界中の映画人からよせられた祝電と花束のなかでルノワールの健在ぶりを盛大に祝った。

まったく、ルノワールの歩みは巨大だ。サイレント時代の前衛映画の作品群にはじまって、30年代には「詩的リアリズム」の代表作家とうたわれ、40年代には、アメリカに渡って活発な作品活動を続ける。その後、ルノワール行方不明説がヨーロッパでひろまった頃に、こつせんと、インド映画「河」で堂々たるカムバックをとり、50年代から60年代のフランスで、「フレンチ・カンカン」をはじめ超大作を

次々に発表。68年には、先頃世界中の映画人がその急逝を惜しんだアンリ・ラングロワのシネマテーク事件で、ゴダールやトリュフォールと共に先頭に立って、当時のアンドレ・マルロー文化相と対決するなど、常に、同時代の映画作家の巨大な旗手であり、また、新しい世代の映画作家たちの精神的な父であり続けている。絵画の世界でなら、父親のオーギュスト・ルノワールよりも、むしろピカソに比較した方が全貌のとらえやすい巨大な作家といえよう。

日本では、そのルノワールのほんの一端の作品しか紹介されていない。ヘゼン・ド・ルノワール77は、「大いなる幻影・完全版」のアンコール・ショーと、「ピクニック」および「素晴らしき放浪者」(いずれも日本初公開)のロードショーの連続上映によって、ルノワールの巨大な全貌に、より一歩迫ろうとするところみである。

「大いなる幻影」の影の製作者ギャバン

「大いなる幻影」がルノワールの代表作であるだけでなく、脚本家スパークの、そして俳優ギャバンや、シュトロハイムや、フレネー、ダリオ、ディタ・パルロ、そして助演の名優陣のひとりひとりにとつての代表作であるとはいえず、企画の実現は容易ではなかった。ルノワールは語っている。「反戦映画は商売にならないと、どのプロデューサーからも断わられ続けていた時、ギャバンが脚本を読み、自分が主演することを条件に製作資金をひきだしてきてくれた。生涯プロ根性に徹したギャバンは、ルノワールの苦境を救い、この名作の影の製作者の役割を果たしたが、このエピソードを自ら語ることは生涯しなかった。



(スタッフ)

監督	ジャン・ルノワール
脚本・脚色・台詞	ジャン・ルノワール、シャルル・スパーク
撮影監督	クリスチャン・マトラ
撮影	クロード・ルノワール
音楽	ジョセフ・コスマ
助監督	ジャック・ベッケル
完全版復元(1958年)	ジャン・ルノワール、ルネー・リヒティグ

LA GRANDE ILLUSION  
大いなる幻影  
フランス映画社配給

(キャスト)

マレシャル中尉	ジャン・ギャバン
エルザ	ディタ・パルロ
ド・ポアルデュー大尉	ビエール・フレネー
フォン・ラウフェンシュタイン大尉	エリッヒ・フォン・シュトロハイム
ローゼンタール中尉	マルセル・ダリオ
寄席芸人カルチェ	ジュリアン・カレット
測量技師	ガストン・モドー
田舎教師	ジャン・ダステ
ピンドロスの学者	リュシアン・イトキン

フランス映画 [完全版 1時間55分 3172m]

予告 SAISON DE RENOIR '77  
3月26日(土)より エキブ・ド・シネマ 岩波ホール  
第13回ロードショー

昭和51年度芸術祭参加作品  
素晴らしき放浪者  
BOUDU SAUVE DES EAUX  
ジャン・ルノワール監督 ● ミシェル・シモン



PARTIE DE CAMPAGNE  
ピクニック  
ジャン・ルノワール監督  
原作モーパッサン